<今月の１枚>空知太小学校防災教室（避難所運営ゲーム）

親の言いつけ

２０２４年１月１日に能登半島地震が発生した際、石川県にある輪島市立輪島中学校の生徒たちは、同県白山市へ集団避難をしました。３月になって輪島市へ戻り、学校生活を再開したその半年後、９月２１日からこの地域を襲ったのが「能登半島豪雨」でした。

河川氾濫と土石災害が多発し、１６名が死亡。その中には中学３年の女子生徒が含まれています。この時の報道から、ある父娘のことをお話します。

◇◆◇

「中学生の思春期を迎えて父親の私とはぶつかることも多かった。ただ、『今の半袖半ズボンでは、ケガの恐れがあるから長袖を着なさい』。それが、娘との最後の電話になりました」。

能登半島豪雨から９日。家ごと流された１４歳の喜三翼音（きそ　はのん）さんの安否が分からず、土砂の中を懸命な捜索活動が続けられていた。しかし、福井港沖合４０㎞の日本海で、判別不明のご遺体を漁船が発見し、海上保安庁の巡視艇によって収容された。

下は半ズボンに長ズボンを重ね、上は半袖に長袖を重ね着していた。着衣のジャージのタグには手書きで「喜三」のネームが記されてあり、身元の手がかりとなった。

翼音さんは、父親の言いつけを守っていた。

報道陣に囲まれた父鷹也（たかや）さんは、取り乱すことなく、捜索活動に従事した消防、自衛隊などの組織の名をひとつひとつ挙げて礼を述べた。地元漁師への感謝も添え、その気丈さに胸が痛んだ。

この父ありて、この子が育った…　いや、きっとこの娘が、父を強くしているとそう思った。

生涯学習推進アドバイザー　小田島数幸（元.砂川高等学校長）